

QSK 福精連

公益社団法人福岡県精神保健福祉会連合会

〒812-0046

福岡県福岡市博多区吉塚本町13-50

電話092-292-0560 F A X 092-292-0561

e-mail: fksr1974@fukuseiren.com

ホームページ <http://www.fukuseiren.com/>

No. 116 令和6年1月1日



新年のご挨拶

公益社団法人

福岡県精神保健福祉会連合会

会長 橋本 恭一



あけましておめでとございます。

皆様におかれましては、清々しい新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

昨年コロナウイルス感染症が5類になった頃から国内外の人流も増える一方で、戦争に端を発した物価高騰は私達の生活に重くのしかかっています。今年こそ経済の回復と物価の安定を望みたいものです。

本年は、福精連もお陰様で創立50周年の佳節を迎えます。また九州ブロック大会も本年は、福岡県が開催地になっていますので、記念式典と九州ブロック大会を11月21日と22日の2日間で開催するよう準備を進めているところです。

50年の歴史の中で、礎を築き発展させていただいた多くの諸先輩の皆様方から感謝申し上げますと共に、次の60周年を目指して、新たなスタートをきる年にしたいと思っております。

現在、家族会が高齢化による活動の衰退が、事業所は株式会社等の参入により利用者減が憂慮される状況であります。その中で、すずめのお宿家族会では、昨年、未入会の新たな方が例会に10月

に9名、11月に3名参加されたそう、日頃の丁寧な電話相談の対応や情報の発信が実を結んでいると思います。

また、昨年9月20日にヤマト福祉財団主催のシンポジウムが八女市に於いて開催され、小倉昌男賞を受賞されたハイジ福祉会の山口さん親子がシンポジストとして発表されました。農福連携の第一人者として地域経済の一翼を担うまでに発展された努力には、敬意を表し称讃を贈りたいと思います。

家族会の皆さんは、活力ある家族会を目指し、他と比べず出来ることから工夫してまいりましょう。

事業所の皆さんは、今いる利用者を大切に、どこまでも利用者に寄り添い、リカバリーの道を共に歩む者としての使命を果たしてまいりましょう。

その先に、必ず家族会や事業所の繁栄があると信じています。



昔の写真を募集します

今年、福精連が創立50周年を迎えます。記念式典にあたり、創立時から現在に至るまでの歴史をたどりたと思っています。過去の大会や研修会、運動等写真をお持ちの方がいらっしゃいましたら、是非ご提供ください。（写真はスキャナーで読み取り後ご返却します。）

問合せ先

福精連事務局まで

電話 092-292-0560

メール fksr1974@fukuseiren.com

皆様の長年の活動、活躍に敬意を表します。
誠にありがとうございます。



【令和5年度表彰者】

（敬称略・順不同）

第70回精神保健福祉全国大会（10/27大分県）にて左記1団体が受賞されました。

【日本精神保健福祉連盟会長表彰】

・みらい（福岡あけぼの会）

こころの健康づくり大会（11/7飯塚市）にて左記3名が受賞されました。

【福岡県知事表彰】

・菅野 康子（しのめ福祉会）

【福岡県地域精神保健協議会長表彰】

・田原 恭子（スマイル門司）

・村上 大作（グループホームてとて）

令和5年度 福精連 要望活動報告

福岡県との要望協議

医療費助成など10項目で 具体的な試算・検討をすべき



10月13日、福岡県との要望協議を県庁で行い、福精連より橋会長、副会長など5人が参加。

県障がい福祉部、健康増進課などと懇談を行いました。

要望項目は、昨年同様3障がい同等の医療費助成と交通運賃割引、家族支援、地域生活・就労支援、差別解消、啓発教育、障害年金、精神医療の改善など10項目。

医療費助成については、①当面2級までの無料化、②精神科入院費3割自己負担の助成、③精神障がい者実態調査の事前協議などを要望しました。

県は、「医療や保険が県によって格差があるべきではなく、国

の制度とすべき」「実態調査は令和7年度を予定。事前協議をする」との回答。

福精連からは、「県や市町村で助成制度を拡充しているところがある。国待ちではなく県として検討して欲しい」、「働けず身体合併症も多い精神障がい者にとって負担の軽減策が必要だ」、「助成した場合の試算と、障がい等級別などの実態調査」を強く求めました。

交通運賃では、JRなどがまだ実施しておらず、国交大臣指示で「精神障害者割引の導入促進」を明記しており、早期実現を要望しました。

家族支援については、各保健所で開催されている家族講座が減少。病気を正しく知るとっかかりとなる講座として重要であり、開催数をコロナ前まで増やすように要望しました。

また、電話相談について、県と市町村の広報紙への掲載など、周知をお願いしました。

地域生活支援では、訪問支援の充実を要望。「2013年から医師などの訪問支援を実施。一昨年度は1件、昨年度は0件」との回答、「あまりに少ないのでは？」との問いに、「本人家族の同意があるので難しい」とのことでした。

「基幹相談支援センターは31市町村で実施」。精神障がい者にも対応した地域包括システムの進捗状況は、「地域生活支援協議会」の名称で協議しているが、「県ではここ4年開催していない」との回答に、開催と家族代表の参加を求めました。

なお、前年度から実施している障害福祉課等との定期的な情報共有や意見交換の場の再開を要望しました。

（白石雄二記）



公明党下野参議院議員との懇談

11月14日公明党下野参議院議員が当会へお越しくださり1時間半に渡り懇談の機会をいただきました。

まず初めに、精神障がい者が置かれてる状況をお伝えし（もう30年、障害者として精神障害が位置づけされたのに関わらずいまだに、同等になってないところに、非常にもどかしさを感じてるという事）、下記内容を強く要望をしました。

①医療費助成の後押しを：医療費助成は市町村ごとに異なるため格差があり、お金がないと入院、通院を控えることも。全科無料を訴え、国の方にも後押しをお願いをしました。

②判定基準を明確に：手帳の判定基準がきちんと定められていない為、県によって等級割合に格差（例えば長野県は1級所持者が47%程だが、福岡県は6%弱）がある。判定に公平性を。（ただし、長野等1級割合が高い県へ低い県も合わせてほしい。）

③JR等交通運賃割引を

④メンタルヘルスケアの普及を：精神障がいは誰しもかかる可能性があり、身近にそういう方がいるということを知って貰う、正しく理解して貰えるよう、国として予算も使ってほしい。

下野参議院議員、秘書の方は熱心に話を聞いてくださり、後日厚生労働省に要望を伝えてくださったと報告を受けました。良い回答は得られなかったとのことですが、私たちの言葉に耳を傾け、早急に動いて下さった事に感謝しますと共に、今後も要望し続けて参りたいと思います。





「みなさんは
毎日十分な睡眠がとれていますか？」

11月7日(火)イイツカコスモスコモンにて4年ぶりに「こころの健康づくり大会」が開催されました。

大会では今年度県知事表彰、地精協表彰(1ページ参照)が行われた後、久留米大学学長内村直尚氏による「睡眠とこころの健康」をテーマに講演がありました。

みなさんは毎晩何時間寝ていますか？人間の脳は体の2%部分に関わらず、身体全体の使うエネルギーの20%を消費しています。そんな脳を休める方法は唯一の方法が睡眠です！睡眠は日々のストレスから解放される貴重な時間なのです。レム睡眠中には嫌なことを忘れる忘却の役割があり、**日中の疲れやストレスを回復させる為にも睡眠は大事なのです。**

また睡眠不足の方は乳がん、前立せんがんのリスク、認知症の発症リスクが高まる他、肥満になりやすいと証明されており、睡眠が身体に及ぼす影響の大きさを、睡眠の重要性を学びました。

講演の中でハッとさせられたのが、週末の夜更かしが翌週の半ばまで影響(体調悪化)を及ぼし、うつ発症も引き起こすとの事。夜更かししても2時間以内。休日でも規則正しい生活リズムを心掛け(遅寝遅起きはダメです)、朝日を浴び、朝食を食べ、日中元気に過ごすことで翌週も元気に1週間過ごせるとの事。ついつい、週末は夜更かし、朝ゆっくり起床しがちですが、月曜になっても疲れが取れない原因が生活リズムの乱れにあったとは・・・反省しました。

本大会では遠方にも関わらず足を運んでくださった皆様、物品販売会にご協力頂いた事業所の皆様、本当にありがとうございました。スタッフ含め総勢325名の参加と、大盛況のうちに終わることができました。



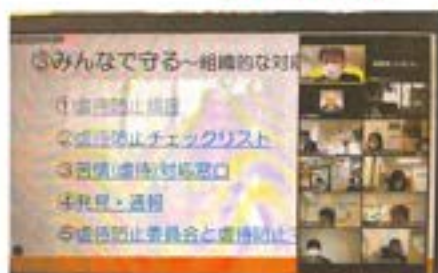
講演「睡眠とこころの健康」
久留米大学学長 内村直尚氏
司会 内村直尚氏

虐待防止研修会

令和5年11月16日(木)オンラインにて虐待防止研修会を開催しました。

事業所部会の一員でもある社会福祉法人大川市福祉会 施設長 上釜氏より「障がい者虐待防止の理解について」と題し1時間と限られた時間の中ではありましたが、大変分かり易くコンパクトに重要な点が伝えられ、話に引き込まれる、すごく良い研修会でした。

- ①人としての成長が大切
 - ②笑顔あふれる場所
 - ③最高のサービスはここにある
- ～自分が受けてみたいサービス
(支援)の実現～



拡大会議



令和5年10月20日 年度の間報告を意味する拡大会議が春日クロバープラザにて開催されました。

冒頭の檜橋会長挨拶では、会員のみなさんの満足度をあげるべく研修会を企画していきたい、その手始めとし「虐待防止研修会」を企画、参加を募りました。また、順次家族会、事業所のみなさんの元へ訪問し皆さんのお話を伺いたいと話されました。



第3回家族職員研修会

「ひきこもりや精神疾患の当事者を抱える家族支援：家族が抱え込み共倒れしないための工夫」

講師：加藤 隆弘 氏(九州大学大学院医学研究院 精神病態医学 准教授)

日程：令和6年1月24日(水)14時～16時

会場：福岡県中小企業振興センター 401A 会議室

みんなねっと全国大会IN埼玉

第15回全国精神保健福祉家族大会が10月14、15日にさいたま市で開催。メインテーマは『家族まかせにしない社会』。

基調講演は、日本ケアラー連盟代表理事の堀越栄子氏による『ケアラー支援を進める社会』。

そもそも日本では介護は家族がすべきという考えが根付いており、ケアをする人をケアする仕組み・考えが無い。2022年に埼玉県で全国初のケアラー支援条例が成立し、現在19の自治体に制定。中でも、北海道栗山町の条例では、『ケアラーとその家族』との文言が入っており家族も支援する対象と明記。お話の最後に、ケアラー支援法はまだ始まったばかり。家族全員を対象として、ケアラーが尊重され健康で文化的な生活、人生を送れるようにケアラー支援を進めて行きたいと語られました。

と家族支援。今の日本は家族が支えることが前提で障がい者の政策が作られている。そこを変えていかねば！家族依存政策からどう脱却していくのか。日本が2014年に批准した障害者権利条約は障がい分野の初の世界ルール。『私たち抜きに私たちのことを決めないで』と障がい者自らが声をあげ参加し、作成。『障がいとそれを取り巻く周りの態度』が社会的障壁であり、障害そのものである。医学モデル(障害そのものを治す)から社会モデル(特徴を生かしそのまま生きる。社会を変える)そして人権モデル(それぞれ個性を大切に)へ障害のとらえ方の大きな転換点となりました。

総括所見を私達、自分達のものにして、生かしていきたいと語られました。

第1分科会は『ケアの脱家族化を考える』と本人と家族双方の自己実現をめざしてというテーマで、まず佛教大学の塩満卓氏より、本分科会の背景①法制度が家族にケアの責任を強い続けている②障がい者が在宅生活を継続できるのは、同居家族の献身的なケアがあるから③家族自身が自己実現目指していく。家族による直接的なケアなしで地域生活を継続できる『脱家族化』プロセスについて話がありました。

感、過去の償いから。『脱家族化』同居から非同居へ移行していくには。

①家族以外に頼りになる人を見つけて、家族と本人の問題を切り分ける。家族は家族会等に入り学ぶ。本人は、日中活動で仲間を増やす。そうすることで、親元からの自立へ繋がる。②専門家が入り、親と子の認識のずれを調整。家族から社会へとチェンジしていくロードモデルの作成。直接的なケアは専門家に委ね、家族は家族ゆえの情緒的なケアを担って！と語られました。その後、さいたま市もくせい家族会の山口さんが親の立場からお話。息子さんの発症からの体験を3つ壁に分けて話されました。第1の壁『無知の涙』。悲嘆にくれた日々。病気の無知、相談先不明、医療につながらず術がない。第2の壁『深く暗い闇』。家族会につながり知った現実。日本における精神医療の実態、偏見、社会資源の貧しさ。第3の壁『岐路に立つ』自立と依存先を増やすこと。親の役割は、回復を信じて、社会

に委ねる。学び続け、体験を語り発信すること。当たり前の人として、自分で考え、選んでいく人生を親として、私は応援していきたいと語られました。

その後、支援者、きょうだいのパートナーの立場の方々が話されました。共通点としては、同じ立場の人と出会う事の大切さ。また、支援者はマイナスをゼロにすることはできるけれど、仲間(同じ立場の人)はゼロをプラスにする力を持っていると言われました。最後に、それぞれの立場の登壇者から、ケアの脱家族化を促進していくポイントとして、①聞くことで新しい価値観が生まれ、語ることで自分を見つめ心の整理ができる②家族に頼る構図(キーパーソン)ではなく、支援者もキーパーソンになり得ることを覚悟をもつて行っていく③助けてと言ってもいい土壌を作っていく④それぞれの立場で必ず困っていることがあるのだという視点を持つ。また、困っていると発信していく。両方からの取り組みが必要だ、との意見

が出ました。この運動が広がっていくことが必要ですと、第1分科会は終了しました。

みんなねっと埼玉大会は、1日目2日目に、深く心に響きました。ここまで家族のみに焦点をあてたテーマでの講演は、なかなか無かったのではないかと思います。特に2日目の第1分科会では、自分の思いがそのままに語られているようで、今までのが思い出され涙が出ました。福岡からは遠かったけれど、家族学習会でつながりのあるメンバーと実際に会うことができ、夜はみんな語り合い、共に過ごせた事は私の宝物になり、私は一人ではないと改めて思いました。そして、私もこれからずっと学び続けていく。語り続け、発信し続けていこうと心に誓いました。

福精連理事 隅谷 和生



スポーツレクリエーション大会

福岡ブロック

「第25回福精連福岡ブロック合同スポーツ大会」が、9月20日（水）福岡市障がい者スポーツセンターで開催されました。

当日は、8事業所、14チームから、当事者100名、ボランティア33名を含む、総勢133名の参加がありました。

競技種目は、昨年に引き続きレクリエーションポッチャを行いました。今年も、老若男女問わず、多くの方たちが競技や交流を楽しまれており、昨年も大いに盛り上がり、今年は前年大会を超える熱量を感じました。

試合は、各チーム練習を重ねてきており、どの試合も手に汗握る熱戦が繰り広げられていました。各チーム応援でも盛り上がり、良い投球が決まるたびに、大きな歓声や拍手が起こっていました。

大会結果は、優勝「ぶらっと」、準優勝「オアシス」、3位「リカバリーセンターふくおか」となりました。優勝決定戦は同法人施設の仲間同士の対決となり、ぶらっとは予選から決勝まで全勝での優勝でした。

今回の合同スポーツ大会は、来賓の「福岡県人づくり・県民生活部スポーツ振興課 主任主事 森園様」、

「福岡市精神保健福祉協議会 清成様」、大会の運営指導や協力をして頂いた「福岡市障がい者スポーツセンター指導員様」、審判をして頂いた「福岡市スポーツ推進委員協議会の皆様」、大会実行委員の皆様、看護師さん、

沢山のボランティアの皆様のご協力があり、大きな怪我や事故もなく無事に終了することができました。参加者の皆様、関係者の皆様、誠にありがとうございました。参加者



北九州ブロック

10月27日（金）小倉北区にある到津の森公園にて、ウオーキングラリーを開催しました。北九州市民には昔からなじみのある動物園です。子供会や幼稚園・学校の遠足などで一度は足を運んだことのある場所ですが、大人になるとなかなか行く機会がないため、参加された皆さん口をそろえて「懐かしい」「ずいぶん様子が変わって驚いた」と言われていました。

開催1週間前の20日（金）が、年度初めの予定でしたが、天気予報が生憎雨だったため、1週間延期しての開催となりました。当日は家族会・事業所8団体59名の参加がありました。

園内は広いので、それぞれの体力に合わせて歩く距離を選択できるように「ロングコース」と「ショートコース」を設定。予想に反してショートのコースを選択した方が圧倒的に多かったのですが、「よく歩いて疲れた」「とてもいいレクでした」「動物がかわいかった、癒された」「餌やりができて楽しかった」等の感想が寄せられました。

いろいろな動物の前で写真を撮る姿や、一生懸命クイズの答えを探す姿が園内の各所で見られました。屋外での行事は天気によって左右されるため、難しいのですが、「久しぶりの大人の遠足」が楽しめ

たと言っていた参加者の言葉が印象に残りました。コースの設定や問題作りは大変で、課題は残りましたが、けが人もなく、同行をお願いしていた看護師さんの出番がなかったのが何よりでした。企画・運営をすると、当番の団体の苦勞がよくわかります。これからも、積極的に色々な行事に参加したいと思っています。

ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。また笑顔でお会いできる日を楽しみにしています。

スマイル門司 施設長 田原恭子



筑後ブロック

10月6日（金）「第26回福精連筑後ブロックふれあい大会」をうきは市吉井体育センターで開催しました。今回は、昨年度コロナ禍の感染拡大に伴い延期していましたが、朝倉市の「あゆみの会」と、うきは市の「みつば会」が担当しました。当日は、筑後ブロック6箇所の作業所・事業所及び家族会を含め、162名の方々にご参加いただきました。

今回の大会は、「全競技全員参加」をコンセプトに「みんなで楽しめるレクリエーション」を計画いたしました。プログラムは、パン食

い競争、ウルトラクイズを行い、「作業所・事業所紹介」では、いざゆけ若鷹軍団応援ダンス、合唱、よかばい体操等練習した成果を披露していただきました。終わりに恒例の炭坑節を大会参加者全員で和気あいあいとした雰囲気で行いました。社会参加を目標とし日々頑張っている当事者の皆さん、そしてそれを支える作業所スタッフ、家族の方々が心身ともリフレッシュすることができ、笑顔あふれるふれあい大会となりました。最後に、大会

実行委員の皆様、後援などご協力、ご支援いただきました。行政機関、関係機関の皆様をはじめ多くの方々のご協力をいただきました。無事大会を終えることができました。

心より深く感謝申し上げます。

浮羽共同作業所

施設長 段野弘美



月間「みんなねっと誌」 を購読しませんか？

賛助会費（購読料を含む）
個人 年間3,600円
※団体は一部還元があるのでお問い合わせを

郵便振込先

加入者名 みんなねっと
口座番号 00130-0-338317



電話番号 03-6907-9211

賛助会員加入のお願い

令和5年度の賛助会員の募集を行います。皆様のご協力よろしくお願い致します。

年会費：個人 3,000円
団体 10,000円

郵便局振込先

加入名：（公社）福精連
口座番号：01760-7-84332



家族のための相談電話

【相談時間】13時～16時



- ・月曜日 090 (1366) 7498
- ・火曜日 080 (3986) 1980
- ・水曜日 080 (1729) 1950
（第4水曜日は0940 (33) 2731）
- ※R6.4～第4の番号廃止
- ・木曜日 080 (1729) 1950
- ・金曜日 080 (1729) 1955
- ・土・日曜日・祝日 9時～16時
080 (1729) 1955

一人で抱えずお電話ください

行事案内

【第3回 家族職員研修会】

令和6年1月24日（水）14時～16時

福岡県中小企業振興センター

【みんなねっと九州大会・鹿児島】

令和6年2月8・9日（木・金）

【第4回 家族職員研修会】

令和6年2月16日（金）オンライン

【報酬改定】

【運営委員会】

令和5年3月8日（金）

【理事会・総会】

令和5年3月22日（金）

※会場が未定の会議、研修会については、
当会からの案内をご確認下さい

令和5年度賛助会員のみなさま

（団体会員）

・医療法人富松記念会 三池病院

・福岡浦添クリニック

・バナソニック松丸会

・柳ちくしの郷・匠

（敬称略・順不同）

（下記へ続く）

左記団体様より支援金・
助成金を頂きました。
心より感謝申し上げます。



- ・株式会社 福岡マツク 様
- ・福岡県精神科病院協会 様
- ・株式会社 ちくしの郷・匠 様
- ・福岡県共同募金会 様

令和5年度賛助会員のみなさま

続き

（団体会員）

・医療法人同仁会 乙金病院

・社会福祉法人 多々良福祉会

・医療法人 要会 かなめクリニック

・医療法人 社団松和会 門司松ヶ枝病院

・一般社団法人 Q-FACT

・医療法人 信和会 大牟田保養院

・医療法人 社団桜珠会 可也病院

・医療法人 みらい 筑紫野病院

・福岡あけぼの会後援会

・社会福祉法人 福岡あけぼの会 カレッタ

・医療法人 一木こどもクリニック 博多

・メンタルヘルスケアクリニック 博多

・医療法人 緑心会 福岡保養院

・油山病院 家族会 あけぼの会

・医療法人 和光会 一本松すずかけ病院

・一般社団法人 ちはや A.C.T

・鳥手そうめん販売所

（個人会員）

・上島 茂幸

・藤 みよ子

・石河 定子

・鈴木 久子

・樋口 靖則

・石田 健治

・田原 恭子

・山口 由紀子

・廣津 輝男

・国房 稔代

・中里 真一

・神谷 真幸

・富松 愈

・佐々木 寿美

・田川 裕二

・菅 理恵

・金子 義郎

・馬場 由紀子

・竹原 享

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------------|---------|--------|--------|---------|--------|--------|---------|--------|--------|--------|---------|--------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|--------|
| ・野田 敏之（敬称略・順不同）（令和5年12月25日） | ・今村 浩司 | ・竹原 享 | ・金子 義郎 | ・馬場 由紀子 | ・菅 理恵 | ・田川 裕二 | ・佐々木 寿美 | ・富松 愈 | ・神谷 真幸 | ・中里 真一 | ・国房 稔代 | ・廣津 輝男 | ・山口 由紀子 | ・田原 恭子 | ・石田 健治 | ・樋口 靖則 | ・鈴木 久子 | ・石河 定子 | ・藤 みよ子 | ・上島 茂幸 |
| ・乙村 未沙貴 | ・伊原 加津代 | ・小野 雄史 | ・大東 義光 | ・富田 義之 | ・古屋 岳治 | ・平山 一雄 | ・富松 佳代子 | ・菅野 康子 | ・山本 由美 | ・松岡 千代 | ・立山 利博 | ・野澤 重信 | ・坂本 清隆 | ・坂本 清隆 | ・坂本 清隆 | ・坂本 清隆 | ・坂本 清隆 | ・坂本 清隆 | ・坂本 清隆 | ・坂本 清隆 |
| ・永末 雄大 | ・木原 聡 | ・判田 章江 | ・松本 國寛 | ・一ノ瀬 孝行 | ・六反 敏裕 | ・川本 茂子 | ・原 久美 | ・下川 展弘 | ・戸田 俊彦 | ・阿部 利民 | ・平川 ミドリ | ・徳久 照道 | ・隅谷 和生 | ・川口 千利 | ・榎橋 恭一 | ・辻田 雄一 | ・井上 俊子 | ・本田 俊子 | ・満崎 いち子 | |



【編集】公益社団法人 福岡県精神保健福祉会連合会 〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町13-50 6F
【発行】QSK九州障害者定期刊行物協会 〒812-0068 福岡市東区社領1丁目12番4号
【年会費】3,000円（購読料含む）定価100円



この機関紙【福精連】は、共同募金の配分金によって作成されたものです。